



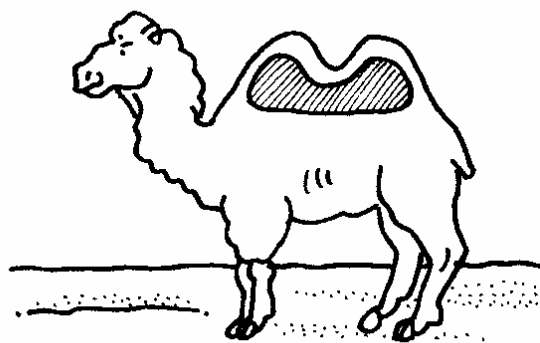
ラクダのこぶには何が入っているの

こぶの中は、脂肪

ラクダのこぶは、ラクダが食べた物の栄養を、たくわえやすい形にした脂肪のかたまりです。脂肪は、およそ50キログラムあります。ラクダのすんでいる砂ばくは、水もえさになる植物も、なかなか見つかりません。へたをすると、3～4日も、水もえさもないということが、よくあります。そんなきびしい自然の中で生きていくために、ラクダの体には、食料貯蔵庫の役目をする、こぶがあるのです。ラクダが何日も食べ物にありつけないと、脂肪がだんだん使われて減っていき、背中せなかのこぶが小さくなっていくそうです。

脂肪は体の1か所に集めたほうが便利

人間やたいていの動物は、ふつう、脂肪は体のあちこちに散らばっているものです。しかし、ラクダは、こぶの中に、体中の脂肪を集めていて、体のほかの部分には、脂肪はついていません。脂肪は、熱を伝えにくい性質があるので、こぶに集めておいたほうが、全身の熱を外へにがすのにはつごうがいいわけです。また、背中に熱を伝えにくい脂肪のかたまりのこぶがあることで、上から照りつける太陽の熱が体にあたるのを、さえぎってくれる役目もしています。（監修・今泉 忠明）



ラクダのこぶは、お弁当のようなもの

